

グラニットコートフロア

施工要領書

グラニットコートフロア 施工要領書

適用下地及び下地処理

コンクリート床

- ・コンクリート床は、事前に表面の脆弱部を除去
- ・ほこり等を取り施工面をきれいにする。
- ・段差等がある場合は、あらかじめ処理をして平らにしてください。

養生

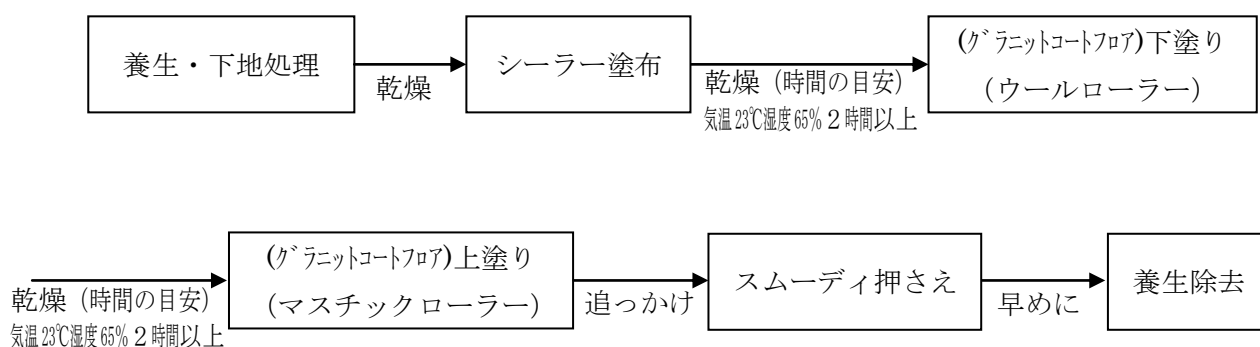
- ・施工面以外に材料が付着しないように養生テープ・ビニール等で十分に養生して下さい。
(その際、施工面から数mm逃げて養生して下さい。)
- ・ペイント塗装面等は、粘着力の小さなテープで捨貼りして養生して下さい。

材料の調整

- ・シーラーはシーラーNをご使用ください。次工程2時間以上72時間以内
- ・(グラニットコートフロア)下塗り材は骨材が入っています。1缶に対して0~100cc/缶の水を加え、ハンドミキサー等で十分に攪拌して使用して下さい。
- ・(グラニットコートフロア)上塗り材は、そのまま軽く柄杓で混ぜ、ご使用ください。
(柄材がつぶれますので、ハンドミキサー等の攪拌機は絶対に使用しないでください。)

施 工

グラニットコートフロア



①シーラー塗布

- ・シーラーN をウールローラーで床面に塗布する。

(塗布量 : 0.15 / m²)

工程間隔時間 (時間の目安) 気温 20℃湿度 65%の場合、2時間以上

※脆弱な下地や接着が悪いと思われる下地の場合はシーラーS をお使いください。

(塗布量 : 0.2kg / m²)

②下塗り

- ・調整した(グラニットコートフロア)下塗材をウールローラーで均一に塗り付けて下さい。

(塗布量 : 0.30~0.35kg / m²)

工程間隔時間 (時間の目安) 気温 20℃湿度 65%の場合、2時間以上

※下塗りから上塗りへの工程間隔時間に関しては気温 23℃湿度 65%の場合 2 時間以上ですが、基本的に指触乾燥 (指で触って付いてこない状態) を基本とします。

③上塗り

- ・(グラニットコートフロア)上塗材をマスチックローラーで均一に塗り付けて下さい。

(塗布量 : 0.5~0.7kg / m²)

④押さえ

- ・上塗り後、追っかけで上塗り面を専用ヘラで表面を引き模様を出す。
- ・模様は必ず同一方向に仕上げてください。同一方向に仕上げなかった場合はムラになる場合があります。

力を入れ過ぎると柄が片寄りますので、表面を撫でるように仕上げてください。

《標準仕様》

| | 工 程 | 材 料 | 荷 姿 | 所要量 (kg/m ²) | 塗り 回数 | 間 隔 時 間 (h) ※ | | |
|---|------------|------------------------------------|--|-----------------------------|----------|--------------------|------|-------|
| | | | | | | 工程内 | 工程間 | 最終養生 |
| 1 | シーラー 塗布 | シーラーN | 4kg(25 m ²) 15kg(100 m ²) | 0.1~0.15 | 1 | | 2 以上 | |
| | | シーラーS | A 液・B 液 16kg セット(80 m ²) | 0.2 | 1 | | 1~72 | |
| 2 | 下塗り | グラニットコートコア 下塗材 清 水(0~100 cc) | 4kg(11 m ²) | 0.3~0.35 | 1 | | 2 以上 | |
| 3 | 上塗り | グラニットコートコア 上塗材 | 8kg(11 m ²) | 0.5~0.7 | 1 | 主材塗布後、直 ちにヘラ押さえ | | 24 以上 |

※工程間隔は、標準時（気温 20℃・湿度 65%）を想定。

注意事項

- ・下地は十分に乾燥していることが必要です。表面の弱い部分は除去してください。
- ・錆の出る恐れのある箇所には錆止めをして下さい。
- ・シミの出る恐れのある箇所にはシミ止めをして下さい。
- ・降雨が予想される場合や風の強い日、あるいは気温が 5℃以下の場合は施工をしないで下さい。
- ・使用した器具は乾燥しないうちに水洗いして下さい。
- ・材料は凍結、直射日光を避けて保管して下さい。
- ・施工前に試し塗りをして色柄を確認して下さい。

< 下地等に関する注意 >

- ・下地の汚れ（レイトンス・油分等）は完全に除去して下さい。
- ・欠損部は樹脂モルタル等で部分補修して下さい。